

上伊那産学官連携キャリア教育「郷土愛プロジェクト」第4期 実施報告

平成 29 年 8 月 4 日

8:10~16:30

主催 郷土愛プロジェクト

夢大学

夢を大きく学ぶ

夢とプロフェッショナルに出会う夏

「上伊那の産業や文化についてもっと知りたい」「キャリア教育や総合につながる地域の情報を知りたい」、そんな声に応えて地域を巡るツアーを企画し、今年は辰野エリアで実施しました。

入学式 夢大学入学オリエンテーション

於：(株) マブチS&T大会議室



進行

田畑和輝氏 傳田智子氏

長野県経営者協会 上伊那支部 青少年育成委員会 (株) ヤマウラ 中島光孝氏

「参加40名の皆様方、ようこそ夢大学へ！」

最初に長野県経営者協会 上伊那支部 青少年育成委員会 (株) ヤマウラ 中島光孝氏より挨拶「上伊那から出て行った若者の多くが地元に戻ってこない現状がある。この夢大学が地域の良さ、地元企業の良さを若者に伝えてくれることを願っています。」

1 時間目 経営学「創業の理念、人材育成への思い」

教授：(株) マブチS&T 代表取締役社長 馬淵 務 氏



講義の前にポップな曲を BGM に全社員による朝清掃とラジオ体操に参加しました



「今日は夢大学の皆さんがお見えです」「志 100年企業唱和」等々、朝のブリーフィングを行い、「本日も気合入れていきましょう！」と業務開始。



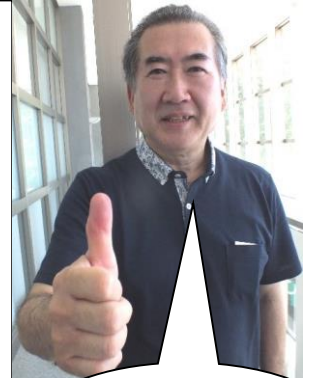
(株) マブチS&Tは昭和 25 年に馬淵商店として光学関係企業として創業、現在の S&T とは Spectra&Technology の頭文字。映像、計測、加工、通信、医療など様々な分野に使用される「光」の無限の可能性を先端技術という器で広く分波、発展、飛躍したい決意を込め社名に冠している。



経営理念「私たちマブチ S&T グループは、思いやりと誠実を人格の礎とし、志を合わせ、プロ意識に徹し、自らの手で私たちを取り巻く全ての人々の物心両面の幸せを創造し、社会に貢献することを目的としています。」



- ・大事なことは会社の中にいる「人」です。中島みゆきの「糸」という曲がありますが、人生は運命の縦糸と日々起きることが横糸で織りなされていると思います。運命は変えられないかもしれないが、善行することが大事ですね。
- ・うちは社員に辞めてくれとは言わないファミリー企業です。良い時はどこの会社もいいが、悪い時は全員で乗り切っている。儲かる努力をしている。雇用不安にしない。赤字は罪悪。信用を守る。損得でなく善悪で判断する。凡事徹底。
- ・うちは個性豊かユニークなメンバーが揃っている。しかも自発性を重視し全員にチャンスを与えている。提案があれば「いいですねー。検討しましょう。」で収入とポストを与えることで実績を上げている。現在国内はもとより、香港、韓国、蘇州（中国）、タイなどでも積極的な活動をしている。
- ・社是は天野貞祐氏の「過去に感謝 現在に信用 未来に希望」
- ・毎年新人を一人とる。毎年とることは難しいことだが、一つわかった事がある。それは面接ほどあてにならないことはないということです。
- ・若者が未来を作ることは全員が知っている。こどもの可能性は無限にある。フタをしているのは自分。先生方や大人が元気でいてほしい。（講義一部抜粋）



いいですねー！
検討しましょ
。

参加者からのメッセージ

- ・社長さんはまさに新時代をつくるべく英才教育をされる運命であったのではないかと感じました。「一度きりの人生、自分がやりたいことをやる」社長のお言葉を今後、子ども達に様々な形で伝えていけたらと思います。
- ・大人が夢を持ちエネルギーに満ちていれば、子ども達に良い影響を与えることができ、より良い未来につながることを改めて学ばせていただきました。
- ・社員全員での朝清掃から一日が始まり、社長の大切にしている社員が会社から大切にされていると感じました。上伊那には社員を大切にしている会社が多くあることに感心しました。
- ・本日はありがとうございました。会社の開けた優しい雰囲気、社員の方々のフレンドリーで楽しんでいる感じがとても素敵でした。辰野がより好きになりました。イイね！
- ・「社員が会社から大切にされていると思える会社」という言葉は学校教育にもつながるものだと感じました。子ども一人一人が大切にされていると感じられる教員を目指したいです。
- ・運命は自分たちで切り拓く。善行すると返ってくる因果応報の考えは良いと思います。社長の考えが聞けて良い会社だなと思いました。こういう会社に生徒たちが行ってほしい。
- ・創業時の看板に刻まれた歴史を常に心に持っている事、そして人を大切にしている事。当たり前のことを大切にできない日常の中で、とても心に残るメッセージでした。
- ・まずは我々大人が元気になることが大事。また自分から、お互いの関係を切らない。絶対的な信頼をおくことが大事というお話。明日から自分の生き方に生かしていきたいと思いました。
- ・「思えば叶う」という言葉が印象的でした。人脈マップ、ビジョンマップを参考にしていきたい。人への思いに感動しました。馬淵 務教授のファンになっちゃいました。素晴らしい内容に感動。
- ・会社だから利益重視となることは当たり前である中で、馬淵さんのお話を伺い、人を会社の単なる駒にしないという考え、思い、行動を知り、人とつながり合って働いていくことで、お互いに元気に生かされ、楽しく利益を生み出せるということを改めて考えさせていただくことができました。
- ・「いいねー」にパワーをいただきました。ありがとうございました。
- ・2年前に生徒と共に見学させていただきました。今、生徒の可能性を信じ接していますが、自分の子供には目の前のことしか見えず、先を考えない育児をしていると気づかされました。社長のようなお考えの企業が増え、その企業に生徒が就職できるよう教育して行ける力をつけます。
- ・案内をしてくださった小日向さんをはじめ、社員の皆様が明るく挨拶していただいたことや、態度、物腰が落ち着いていて、きちんとしていること、掃除に取り組まれる真摯な姿勢に心打たれました。企業もまず人なのだなと実感しました。人を大切にしていることが良くわかりました。

2時間目 モノづくり学「まち歩き『歴史と今と未来の融合現場』 於：辰野駅周辺

～「空き家問題」も若者が町をリノベーション～

：リノベーション cafe

教授：辰野町集落支援員 一級建築士 赤羽孝太氏

「あずかぼ」



今は「答えがない時代」or
「答えが無数にある時代」



「空き家は『宝物』。地域に出て体験することが大事」

一級建築士事務所 MMMstudio
代表 赤羽孝太氏



古民家は過去の歴史があるので、それを調べて今に繋げることが出来る魅力がある。また、実行が大切。考えてばかりいないで、まずやってから計画を立てていくことも大事です。



古民家をリノベーションした「農家ふえあずかぼ」は「畑のランチ&天然酵母パン・焼き菓子のお店」として営業中。冷たい天然水美味しかったです。



参加者からのメッセージ・辰野町をゆっくりと歩くことで、これまで考えたこともなかった空き家問題に触れることができました。壊してしまうのはあつという間ですが、どう生かしていくのかということを考えることが大事なんだなあと思いました。「空き家は宝物」って素敵な言葉ですね。「地元に戻ってきたい。地元をもっと盛り上げたい。」この思いで実際に動いて活躍している人がいるという事を本校の高校生にも伝えていけたらと思います。

- ・空き家対策が問題になって久しい感じがしています。空き家の中にある昔の人々の息づかいが感じられる所を生かしていくことが素晴らしいと思います。そこにどう人を集め活動化していくかが課題かな？人を集める仕組みと独自性（魅力）をどう作っていくか楽しみです。

- ・本日はありがとうございました。大好きな地元、大好きな友達がいる場所、少しずつ元気がなくなっていく辰野、すごく分かります。分かるからこそ、私も孝太さんの姿を見て自分もこの町を盛り上げたい!と思いました。自分が動こう、伝えようと思います。未来を作るのは子どもであり、私たちであり、今までつくって来てくれた人ですよ。
- ・リノベーションについて赤羽さんの思いや実体験を交えて説明していただきありがとうございました。今、中学生の担任をしている身としても、生徒たちと地方にはどこでもある町の活性化についての問題や課題をリノベーションを視点に考えてみたいと思いました。
- ・このような機会がないと入れないような所に入れさせていただき、とても興味深かったです。外から見ているのでは全然違うことがわかりました。
- ・自分で起業する(アントレプレナー)だけでもすごいのに、人を巻き込む運動素晴らしいと思います。感謝。

お昼

くらし学「ふるさとランチ」

於：信州フューチャーセンター

～ふるさとをいただきます!美味しいには、心がある、夢がある～

教授：農家のお菓子とごはん「こめはなや」の小沢尚子氏

今年は耕作放棄地を4人で田んぼに戻した。



「こめはなや」さんの雑穀弁当を美味しくいただきました



こめはなやの四季

- ・ もともと50a弱の田畑と、少しの山を持つ兼業農家の長女でした。
- ・ ひよんなことから熊本の自然食レストランで料理することになり、10年(半分は自営)経験。
- ・ 農業がしたくて2000年にUターン。10年間で有機農業をし、現金収入の為に農産加工しようと自宅敷地内で店を始める。
- ・ 地理的な問題もあり、食事提供中心とし、もち類や焼き菓子販売している。開店9年目。

私の田や畑は自然とのせめぎ合いの中で存在している。私が居なくなればそこは山の一部に戻る。人間は自然に生かされる、自然の掟を守って自然を汚さないように生きるしかない。『辰野っていい所だ』と感じ頑張っている大人がいることを子どもに伝えてほしい。(小沢さん談)

参加者からのメッセージ

- ・ 自然を大事にし、自然に逆らわず、食にこだわりお金を稼ぐことを目的としない姿を尊敬します。美味しいお弁当をごちそう様でした。
- ・ おいしいお弁当をありがとうございます。食材は生きる源、安全、安心はもちろんですが、美味しく食べて幸せとコツコツものを作り出す取り組みが素晴らしいと思います。耕作放棄地の問題も空き家同様、大きな課題。若い人を巻き込んで魅力的な取り組みができたらいいですね。中学生とのコラボは楽しそうでいいですね。
- ・ “四里四方に病なし”という言葉を最近知りましたが、「こめはなやさん」はまさにそれですね。美味しく優しい時間をありがとうございました。
- ・ 日々の一つ一つの大切さを改めて感じる事ができました。本当においしかったです。
- ・ 僕も退職したら農業をやりたいなあと思っているので、とても魅力的なお話でした。自分で育てた野菜や米で食べる幸せを自分も味わいたいなあと思います。
- ・ お弁当とても美味しかったです。一つ一つを手作りされていることに感動しました。
- ・ 「暮らしを自分でつくる」というキーワードが心に残りました。衣食住について考えてみませんかという問いかけに、お弁当をいただきながらハッとさせられる部分がありました。
- ・ 複合米について、雑草対策について、とても参考になりました。
- ・ 美味しい昼食をありがとうございました。保護者に対して生徒にお弁当を持たせてほしいという思いは正しかったと強く思いました。自分の子供にも食を大切にしていきたいです。
- ・ その土地でできた作物を自分たちで料理する。作るところから始まって口に入れる所まで、本当に自然に取り組みされている様子が素晴らしいなあと思います。味噌、醤油、梅漬けもしっかりと味わいながら大変おいしくいただきました。

3 時間目

上伊那未来☆ワークショップ

於：信州フューチャーセンター

(1) 「夢実現新聞」の実践体験 教授 米澤晋也氏 (有) 共和堂 社長



夢実現新聞とは自分の夢が叶ったことを伝える未来の日付の新聞。A3サイズの用紙に夢が叶った未来の自分のイメージを絵や文字で自由に表現します。ポイントは会社や仕事の中に自分がいるのではなく、自分軸の中に仕事や趣味などがあると考えると「あなたのオリジナルの姿」「あなただからできる事」が見えてきます。あなたが持っている資源（得意な事、才能人柄、過去の出来事、家庭、趣味、仕事の事など）を組み合わせたり編集したりしてイメージしてみましょう。第三者の記者が書いたかのように、また文章は全て「完了形」で書きましょう。



例：〇〇氏ワールドカップで優勝
〇〇氏市場最年少 ノーベル賞受賞

夢を叶えた自分の想像図（絵）

- ・自分の夢が叶った様子と、その時の自分の嬉しい気持ち。
- ・自分の才能や経験をどの様に活かし夢を実現させたか。
- ・夢が実現して、誰がどんなふう喜んでくれているか？



「自分の夢と言われると難しい」という声もありましたが、情報交換しながら発表し合いました。

参加者からのメッセージ

- ・生徒が夢を持って高校を卒業することが一番大事だと思います。その夢を「夢新聞」を通して見つけられる生徒も多いと思います。ぜひ「夢新聞」を使わせてください。
- ・“全員に可能性がある”。すーっと背中を押された気がします。軽やかで、しなやかで、ほっとする雰囲気は素敵です。子どもたちに答えが無限にある時代に、前向きに自分らしく生きてもらうために、「まず大人から！私から！」ですね。自分の将来を改めて考える良い機会になりました。
- ・生徒が自分の夢へまっすぐ進めるように夢新聞を活用できたらと思います。
- ・「夢新聞」初体験！刺激をいただきました。思う事、願う事を心がけたいと実感しています。
- ・改めて自分の夢を考える時間を持つことができました。今日の新聞の内容を、いつの日にか実現させたいです。
- ・夢新聞によって、自分の行動を自ら止めてしまう「とらわれ」のようなものが何処かに吹っ飛ば瞬間があったように思います。貴重な体験をありがとうございました。

- ・自分の夢となるとなかなか難しいのですが、小学生の頃夢見ていたことを思い出して書きました。その頃夢見たことが、今まだ実現されていないので、近未来に向けてまだまだ自分も行けると思ったことが新発見でした。ありがとうございました。
- ・弱みを強みに変える事を改めて知ることができました。生徒たちを自信に満ち溢れた生徒にしたいと思います。
- ・いつもとは違う脳を使った感じです。この歳で「夢」を考えようとは！小中学生にはきっと嬉しく楽しい時間になっただろうと思います。米澤さんのファシリテートにうまく乗せられて私も楽しく活動できました。ありがとうございました。
- ・夢新聞、楽しい時間でした。大人が夢を持って生きられることは、子どもの未来に繋がりますね。

(2) 上伊那の未来をつくる 教授 (一社) タグポート代表理事 伊藤 優氏 宮原陽子氏

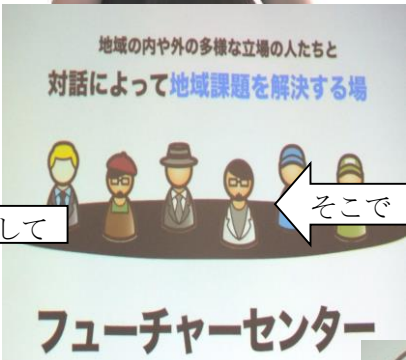
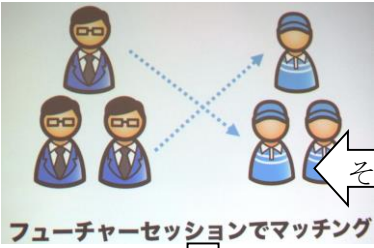


伊藤 優氏 宮原陽子氏

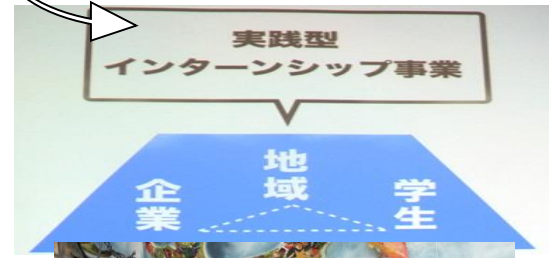
若者の都市部への
流出

なぜ出て行く？
魅力ある仕事がない？

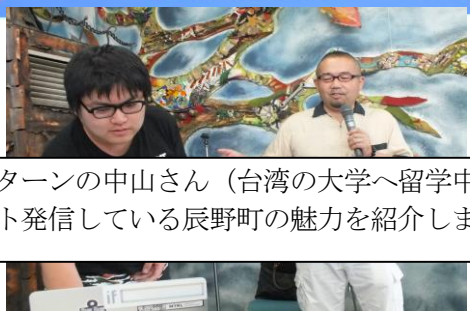
長野県企業数
108,000社
就活サイト掲載企業数
500社



フューチャーセンターという
『地域の底力が発揮できる場』を作り
活力のある信州へ



甘酒屋 a n' s オーナー白鳥杏奈さんより『冷たい滋養飲料』のサービスがありました。これは辰野のお米と小野酒造さんの麴で作った甘酒を豆乳で割った甘酒ラテ。

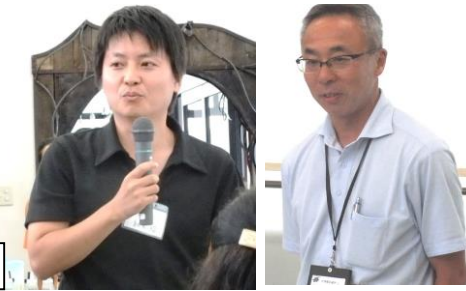


この日もインターンの中山さん（台湾の大学へ留学中）が、インターネット発信している辰野町の魅力を紹介しました。

参加者からのメッセージ

- ・ビッグなプロジェクトに驚きました。対話の大切さを実感しました。
- ・行動することによって、またその先が生まれる。まずやってみて、うまくいかないことをもとにして計画を進めていけばいいという考え方がいいなと思いました。
- ・自らが動き出すことの大切さを教わりました。
- ・「地域の底力」という言葉が心に残りました。思いを共有していくこと、地域の方と協力していくところから始まるのかなあと感じる事ができました。本当にありがとうございました。
- ・人とかかわりの中で町の取り組み、若い人の力や可能性を改めて知りました。ぜひ辰野高校でお話をお願いします。
- ・甘酒美味しかったです。初めての味覚に舌がとっても喜んでます。おごちそうさまでした。

修了式



唐澤直樹 課長

「今日一日研修してみて、『地域活性化』への取り組みが、実際どの程度行われているのかと思ったが、想像以上に地域の人達が『地域活性化』に取り組んでいて驚きました。また、すごく頼もしく思いました。」

信州大学農学部 細見 昭 助教

「辰野町の熱い思いを知ることができて、大変有意義な一日でした。」 広域連合リニア推進課 唐澤直樹 課長



地元に寄せる熱い思いを体験できた素晴らしい一日に感謝します。

産官学での第4期夢大学が多くのスタッフ方々の尽力のおかげで大成功のうちに終了でき、それに参加でき多くのことを学ばせていただいたことに感謝します。「会社は結局その中にいる『人』だ。」という経営理念。空き店舗活用、古民家カフェ、夢新聞作りなど「地域の底力を発揮できる場所づくり」から「活力のある信州」へ向かう道筋を示していただき、どの地域でも参考となる事例にあふれていた夢大学だったと思います。ここで学んだことをそれぞれの立場で、多くの子ども達に伝え、次世代育成や地域づくりに生かしていただければと考えます。

(文責 唐木・久保村)

今回の夢大学に参加しての感想

市町村教育委員会関係

- ・一日を通して、地元である辰野町で地域を盛り上げようと頑張っている大人がたくさんいることを知り、とても誇らしい気持ちになりました。また、子どもたちのために何か得られないかと熱心に取り組む先生方の姿を見て、とても刺激を受けました。
- ・「ふるさと」の存在は、将来どこで生きることを選択しても、心の支えになるはずで、子どもたちが、村を知り、村で生きる大人たちの背中を見つめ、地元である上伊那を誇らしく思えるといいなあと思います。「地域を知り」「地域に関わる」様々な取り組みをしていますので、これからもお伝えしていきます！
- ・“地域を知る”って“地域の人を知る”ということですね。田畑さん傳田さんをはじめ、エネルギーのある人に、またエネルギーのある人が集い、さらなるエネルギーが生まれるのですね。私がみなさんからもらった愛や恩をまた誰かに必ず送ります。出席者同士での交流もできてよかったです。次回も参加します。地元の先生方にも参加を呼びかけたいです。いいね！

教授陣から

馬淵 務社長

私のつたないお話を聞いていただきありがとうございました。皆様が自主的に参加され、しっかり目的意識を持っていらっしゃり、びっくり致しました。

私にとっても生まれ育った町を見学する時間や夢新聞を作成する時間など楽しく過ごさせてもらいました。学校の中に、「社会」を多くとり入れることは重要であると思いました。今後とも、このような機会を増やしていただき、参加したいと思いました。よろしく願いいたします。

赤羽孝太さん

本日はありがとうございました。自分自身も自分の担当の時間（講師側として）だけでなく、夢大学の一日を朝から参加させていただき、非常に楽しませていただきました。自分の担当した街歩きの時間も、一緒に歩く人が変わることによって新しい発見がたくさんあり本当に面白かったです。馬淵商店の創業の場所が商店街にあったことには驚きました。

小学校～高校までの中で地元を離れる学生の皆さんに「田舎（地方）はお宝の山でいっぱいチャンスが眠っている」ということを心と頭と体で感じてもらえることが大切でないかと思っています。最近つくづく感じるのは

本当に教育のあり方の大切さです。創意工夫と行動力が若者の強みだと思います。地元の外に一度出て、日本や世界を知り、修行してシンググローバル、アクティブローカルな働き方もありではないかと思います。若者がチャレンジしやすい、チャレンジできる辰野町です。そんな仲間の輪が広がっていいなと思い活動をしています。

今後ともよろしく願いいたします。

白鳥杏奈さん

今日はまるっと一日、夢大学に参加させてもらいました。

学校の先生や教育委員会の方、キャリアコーディネーターの方、役場の方、などなど、地域で活躍する大人の皆さんと夢や、やりたいこと、やったらいい事を実現している大人達の話を通してワクワクしながら勉強させてもらいました。

学校や、お仕事、どんなことにも繋がることですが、

◎人を大切にすること ◎信頼すること ◎行動すること ◎いいと思うことを実行すること
◎ワクワク楽しんでやること ◎繋がり ◎過去と今と未来を改めて大切にしたいなあと思いました！

『関わった人と、どんなことが出来るか考える』というお話のなかで、わたしも自分でやり始めたからこそ、関わりや繋がりのおかげで大切なものや、人と、また新たなワクワクする場や、ものや、コトを作りたいなあと思いました。共感し合える仲間がいること、楽しみながら一緒に考える時間があること。素敵なこと幸せだなあと改めて夢大学を通して感じる事が出来ました。

学校職員関係

- ・辰野町を中心に企業やそれぞれの立場で活躍されている方の生き様に触れさせていただき、改めて働くことに夢や希望を持ち、郷土と共に生きていることの素晴らしさを感じました。自分にも何かできそうなことが見えてきた感じもしています。地域の方の思いを子どもたちに届けるのも私たちの仕事だと感じましたので、何か取り組みたいと思います。
- ・夢大学に参加させていただく前までは辰野町は自然の豊かな町というイメージしかありませんでした。しかし、夢大学に参加して、この町は人があたたかく、人を大事にし、辰野町を大事に思っている人が多い素晴らしい町だと再認識できました。そして、そんな町を好きになりました。この思いを生徒に伝え、生徒が自分の住んでいる地域について考える良い機会を作ればと思います。本当にありがとうございました。なぜ「辰野町」で活動しているのかもっと聞けば良かった。
- ・夢大学の良さを他人にどうやって伝えていくのか考えたい。特に自分の地域出身者の若い人たちに伝えたい。
- ・辰野町を中心に企業やそれぞれの立場で活躍している方の生き様に触れさせていただき、改めて、働くことに夢や希望を持ち郷土と共に生きることの素晴らしさを感じました。自分にも何かできそうなことが見えてきた感じもしています。地域の人々の思いを子どもたちに届けるのも私たちの仕事だと感じましたので、何か取り組みたいと思います。歴史をもう少し話してもらいたかった。
- ・期待していた以上、大幅に楽しく、ためになる大学でした。大学教員として個人としてできることを模索して行動していきたいと思います。準備が大変だったのではないかと思います。ありがとうございました。いいね～。
- ・今年は都合で5月30日の交流会には残念ながら参加できませんでした。本日は夢大学に入学でき、幸せな一日を過ごすことが出来ました。馬淵社長さんや赤羽さん、小澤さんのお話をお聞きし、それぞれの皆さんの熱い思いや取り組みに感動し、自分もまた頑張ろうという気持ちになりました。貴重な一日でした。
- ・街を歩いてまわる機会がなかったので、じっくり見て回れてよかった。ふだん自分が見ていたものとは違う部分が見れました。色々な学校の先生と話ができて良かったです。
- ・街歩きでは、家の中まで入り、昔の生活を想像することが出来た。生活していくことの大変さ、時代の移り変わりを感じることができた。歴史や過去を知ることが大切だと思えました。異職種の方や、知らない場所や物と出会えて刺激的でした。ありがとうございました。
- ・若者の“ちから”にとっても感動し、これからの活動に生かしたいと思えました。ありがとうございました。
- ・夢新聞づくりを体験させていただきましたが、子どもたちが将来について考える機会として、この新聞づくりはいいなあと感じました。(自分で考えて書くのはとても大変だったのですが)。また辰野町の甘酒やクッキーなど、町内にいても、飲んだり食べたりできなかったものを知る、良い機会にもなりました。地元の企業や活動等の紹介をはじめ、参加者同士の交流など、楽しみながら学べるように工夫していただき大変ありがたかった。
- ・「つなぐ」、「集う」、「つづける」、「つくる」、様々なキーワードが心に残る研修になりました。町を元気にするために、地域の底力を信じどう働きかけていかにポイントがあったように感じています。
- ・辰野の町歩きは空き家のみならず、達人の目から見た街並みの隠された秘密を知ることができ、知的興奮を味わいました。マブチS&Tさんの朝掃除、朝礼も大変参考になりました。要は、人づくりなんだと納得しました。この点については学校内でも共有したいと切実に思いました。人がやらなければ自分がやるんだという起業マインドにも感銘を受けました。

以上